

2. 地域における担い手の確保状況

担い手は十分確保されている / **担い手はいるが十分ではない** / 担い手がない

3. 将来の農地利用のあり方

集落内には小規模な農家が散在しているが、農地としては比較的集中した地形となっている。これらのことから、農地の集約による営農効率の向上が見込まれる。

4. 農地流動化のための農地中間管理機構の活用方針

中心となる経営体への集落内農地の優先的な集約を進める。

5. 近い将来農地の出し手となる者と農地

氏名	年齢	現状(R2年度)		計画(R7年度)		利用しなくなる農地面積	農地中間管理機構への			備考 (今後の役割等)
		作物	規模 (ha)	作物	規模 (ha)		貸付希望の有無	農地面積	貸付時期	
A		野菜	0.03			0.3	有	0.3	H28済	
B						0.2	有	0.2	H27済	
		合計	0.03			0.50		0.50		

6. 今後の地域農業のあり方(地域の中心となる経営体とそれ以外の農業者を含めて)

取組事項	対応	コメント
生産品目の明確化	○	1. 環境配慮型の有機減農薬の特別栽培山田錦の作付を拡大し、高付加の酒米とする。 2. 山田錦を地域の特産として、村米制度を拡充していく。「秋田村」構想の進展。
複 合 化		
6 次 産 業 化		
高 付 加 価 値 化	○	
新 規 就 農 促 進		
そ の 他 ()		

実質化された人・農地プラン追加事項

市町村:多可町
 集落名:中区鍛冶屋

1.対象地区の現状

①地区内の耕作面積	25.9 ha
②アンケート調査等に回答した地区内の農地所有者又は耕作者の耕作面積の合計	20.7 ha
③地区内における75才以上の農業者の耕作面積の合計	9.6 ha
i うち後継者未定の農業者の耕作面積の合計	6.2 ha
ii うち後継者について不明の農業者の耕作面積の合計	0.4 ha
④地区内において今後中心経営体が引き受ける意向のある耕作面積の合計 (備考)	4.9 ha

2.将来の農地利用のあり方

取組事項	対応	具体的な取り組み
担い手に集積、集約化する	○	今後、高齢化等で耕作ができなくなる農地について、地域の中心経営体に集積・集約化を進めていく
担い手の分散錯圖を解消する	○	担い手間で調整を行い、農作業の効率化を図れるよう集約化を進めていく
新規参入を促進して、新規参入者に集積集約化する	○	新規参入希望者があれば、農会が協力して参入できるよう検討を行う
耕作放棄地を解消する	○	耕作放棄地が発生しないよう、農会が調整役となり担い手を中心に耕作者を募り、農地を守っていく

3.2についての農地中間管理機構の活用方針

取組事項	対応	具体的な取り組み
地域の農地所有者は、原則として農地中間管理機構に貸し付ける	○	定した担い手の経営を進めるため、積極的に農地中間管理機構により集積を行っている
農業をリタイア・経営転換する人は、原則として農地中間管理機構に貸し付ける	○	
担い手の分散錯圖を解消するため利用権を交換しようとする人は、原則として農地中間管理機構に貸し付ける	○	